

風呂敷でエコライフ！

遊佐町ではエコすまいるレディースの皆様が考案したエコバッグを使っている方が多いと思いますが、レジ袋一枚を作るためには、どのくらいの原油がかかっているのでしょうか。実は一枚につき、お猪口一杯分（約18ml）くらいです。環境省によると日本で使われてきたレジ袋は年間約300億枚で原油換算にすると60万klにも達し、ごみとして出される量は60万tにも上ると推定されます。遊佐町では、関係住民団体、そしてお店のご協力で、H20年からレジ袋の無料配布をやめて、買い物袋の持参を推奨してきました。それは、二酸化炭素の削減のためにも、ごみの削減のためにも、環境に対して大きな貢献になっています。

でも、時々、スイカとか一升瓶とか、買い物バックに入りきらないものがでてきませんか。そんな時は風呂敷を利用すると便利です。

インターネットで調べると、風呂敷の起源は奈良時代に遡るといわれ、文字通り風呂に入る時敷いていた布に由来するらしいです。それが、江戸時代に銭湯の必需品になるとともに、物を運ぶ道具として行商の人たちを通じ、全国に広がり長い間庶民の生活にはなくてはならない存在となったようです。しかし、昭和50年代あたりから、ポリ袋・紙袋に押されて、段々見かけなくなりました。そして、現在、風呂敷は、使い捨てでなく再利用できる包み物として環境面からも見直されてきています。